

## 第3回 福岡市立学校給食運営検討委員会 議事録

### 1 開催概況

- (1) 日 時：平成21年11月19日（木） 14:00～16:30
- (2) 場 所：福岡市教育センター 405研修室
- (3) 出席委員：秀平キヨミ委員長，永野繁一副委員長  
松田瑞恵委員，新飼恵子委員，古河満子委員，宗像壽子委員  
杉山大樹委員(代理出席)，梅林秀巳委員，祐成典子委員  
井上真理子委員，山野みよ子委員，高山泰徳委員  
長谷川弘明委員(代理出席)，大西浩明委員(代理出席)  
野忠雄委員（以上15名）
- (4) 事務局：5名
- (5) 署名人：議事録署名人である増川郁子委員が欠席のため，協議の結果，学校代表者から補充選出することとなり，杉山大樹委員の代理出席である横手小学校の松下和人校長を今回の署名人とすることに決した。

### 2 議事録（要旨）

- (1) 議題1：パンの持ち帰りについて
  - ア 配布資料に基づいて，要約して事務局から説明があった。
  - イ 前回の議論について主な内容の紹介があった。また，その後，「パンを持ち帰りさせた場合の事故については保護者の責任」という意見に対する市の見解について説明があった。
  - ウ 以上の説明に対して次の意見が表明された。
    - ・ そもそも残っているパンに偏りがある。ブドウパン・黒糖パン等は多く，キャラットパン等は少ない。また，ジャムやマーガリン等が付いてない時も残す量が多い。それならば子供達がなるべく残さないようなパンにするなり，ジャムやマーガリン等を付ける回数を増やしてはどうか。
    - ・ 残す量が少ないパンだけを選んだとしても，今度はその中で残るパン・残らないパンが出てくるだけである。パンに何かを付ける方法を探った方がよいのではないか。
    - ・ 学校給食のパンと家庭でのパンは基準が異なるので，国の基準・栄養面等あり，子供が好む様なパンばかりというのは難しい。

- ・ キャロットパン等は単価が高く、限られた給食費の中でのやりくりとなるので、現状の給食費の中では回数を増やすことは難しい。ジャムやマーガリン等を付ける回数についても同様である。
- ・ 給食費とパンの持ち帰りの問題は、それぞれ考えるのではなく一緒に考えなくてはおかしい議論になる。給食費を上げることで食べ残しの少ない献立を工夫し残ったものはリサイクルする。無理に食べさせるのではなく、喜んで食べるような内容にして欲しい。例えば、単価が高いがおいしいパンの種類を増やしたり、またジャムやマーガリンを付ける回数を増やしたりすることで子供達がパンを残さずおいしく食べるのならば、仮にそれで給食費が上がるとしても親としては同意するのではないか。親としては子供が満足して給食を食べていることが一番と考えるのではないか。
- ・ 持ち帰った場合の事故の責任について、口頭での指導、文書による指導、保護者からの念書を徴取した場合いずれにしても市の責任が回避出来ないという見解である以上、これ以上は議論の余地はないものとする。事故の賠償責任で多額の市費を必要とする恐れが免れないのなら、自分たちも、税金を払っている立場でもあるので、「賠償は仕方ないですね、それでも持ち帰らせた方が良い。」とは言えない。持ち帰り禁止はやむを得ないし、これ以上議論しないほうが良いのではないか。
- ・ PTAでの意見集約を協議した。集約は不可能。どうしても意見を集約しないといけないなら、11万人にアンケートを採らざるを得ない。しかし、そんなことをしたらますます混迷に拍車がかかるだけとの結論になった。

エ 以上の意見等に対して事務局から以下のような説明があった。

- ・ 学校給食という性質上、子供達一人ひとりの体格・食べる量・食べる早さは異なるため、残滓ゼロというのは現実的に難しい。ただ、パンの量を調整する等なるべく残滓量を減らす努力はしていく。それでも出てしまった残滓については家畜の飼料としてのリサイクルにて対応していく。

オ 更に議論を続け、次のような意見が表明された。

- ・ 給食パンは20種類もあるそうだが、その中にはぶどうパンや黒糖パンなど、恒常的に食べ残しが多いパンがある。何故、そういうことが判っているのに出し続けるのか。それ自体問題。残滓がでないように考えるべき。
- ・ 持ち帰り問題がこれ以上議論の余地がないことがハッキリした以上、残さず食べるように工夫したりして、持ち帰りを発生させないように、知恵を出していくしかないのではないか。
- ・ そのためなら、多少の給食費の負担増は理解が得られる可能性もあるのではないか。

(2) 議題2：学校給食費の収納状況について（報告）

- ア 配布資料に基づいて事務局から報告があった。
- イ 報告に対しては、特に意見等は無かった。

(3) 議題3：平成22年度の給食費について

- ア 配布資料に基づいて、要約して事務局から説明があった。
- イ 事務局より教委内部の基本的な認識について次の説明があった。
  - ・ パン、米飯の値上げはあっており、加工品についても値上げがあるが、生鮮食品については下落傾向。また、この間の経済情勢は、昨年と変わっていないし、この状況下での値上げは厳しく、昨年同様、現状据え置きで考えていくのが、妥当ではないのか。
  - ・ 献立の工夫ではこれ以上難しいが、物資調達において、もう少しは工夫が可能な面があるようだ。
- ウ 事務局の説明に対し、次のような意見が表明された。
  - ・ 子供の食を考えるなら給食費は上げるべきではないか。おかずにかける金額が少ない。他都市と比較しても厳しい状況である。あと10円おかずにかける金額は欲しい。栄養士もギリギリのところをやっているの値上げについて検討して欲しい。
  - ・ 子供の楽しみ、食育面からも給食費の値上げは必要と思う。現状ではデザートもほとんど付けられない。カレーの肉はポークからチキンに変わった。ジャムやマーガリン等も満足に付けてあげられない状況。政令他都市の状況と比較しても、福岡市の副食にあてる金額も給食費に占める割合も最下位レベルであり食材の充実がなされていないのは明らか。単に食べさせればいいのか、献立の工夫もなくていいのだが、それでいいのか悩ましい問題である。
  - ・ 給食費の見直しは3、4年毎には行って欲しい。昔とは給食に求められているものが違うし、子供達によりおいしいものを食べさせたい思いもある。
  - ・ 現場としては以前と比べて給食が寂しくなっているように感じる。子供達のことを考えると、少しでもいいので給食費を上げてでも給食の充実を図って欲しいという気持ちは十分察する。
  - ・ 現場は努力しているが、もうこれ以上の努力を求められても無理な状況にあると思う。地産地消等を推進していくにあたっては価格を落とせないのではないか。また、食育の一環として行っている郷土料理や世界の料理は子供達の楽しみにもなっており、そのような取り組みを続けるためにも給食費の値上げは必要なのではないか。
  - ・ 食の安全という観点からは安いものは大丈夫かなという心配はある。また、デザート等が減っている現状は子供達にとってはかわいそう。そういうことを考えると、個人的には1食に10円・月額200円くらいの値上げはやむを得ないか

なという気はする。ただし、月額300円となると、3人の子どもで1,000円程度の増額というのでは保護者の中には、値上げに対してかなりの反発があると予想する。

- ・ 保護者としては、もっと工夫の余地があつて、現状の金額で可能であるのならそれが一番良いのだが、現在の給食の工夫の状況を考えると値上げも仕方ないのかなとも思う。ただし、経済情勢等を考えると値上げは厳しいのかなとも思う。どちらとも言えない。PTAでも意見はまとめられないし、この場で、委員として値上げに賛成するとも言えないのが率直な気持ちである。
- ・ 地産地消等は価格では計れない要素である。親は本当に必要な値上げであれば反対はしないだろう。値上げするのであれば、納得出来る値上げをして欲しい。
- ・ パンの持ち帰り問題も併せて考える必要がある。パンの持ち帰りが発生しないように、献立の工夫を行っていくために、1食について10円程度の値上げをし、月額200円の引き上げを検討してみてはどうか。ただし、デザートに充てるというのは少し考え直した方がいいと思う。いずれにしても、教育委員会で保護者に納得のいく説明ができなければ値上げは難しいと思う。納得いく説明ができるのか、どうかに懸かっているのではないか。

エ 以上の意見を踏まえて、事務局から「教育委員会内部で再度検討して、次回の会議に報告したい。その内容で更に議論して欲しい。そういうことでお願いしたい。」と説明があり、委員一同了承した。

#### 4 その他

##### (1) 次回の会議日程

委員長から、12月10日の開催とすることの提案がなされ、委員一同了承した。なお、詳細については、速やかに通知することとされた。